

令和4年度後期常設展

いわき総合図書館
開館15周年記念

いわきの図書館

— はじまりから今へ

はじめに

当館は、名称を「いわき市立中央図書館」から「いわき市立いわき総合図書館」に改め、いわき市文化センターから移転し、平成19(2007)年10月25日に開館しました。今年は、15周年に当たります。

この15周年という一つの節目を迎えたことを記念して、今回の展示では、平成29(2017)年に開館10周年を記念して開催した、企画展「いわきの図書館」を再構成し、更に、当館開館から15年間の新たな試み等について、写真や所蔵資料と共に紹介します。

本展示を通して、いわき市の図書館が歩んできた歴史を知っていただく、良い機会となれば幸いです。

いわき市立いわき総合図書館

いわき地域の図書館の歩み

待望の「平市公民館図書部」が開館

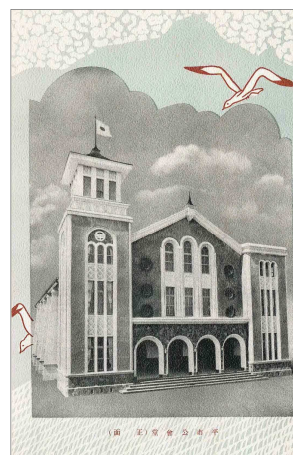
「いわき総合図書館」の前身となったのは、昭和23(1948)年8月23日に開館した「平市公民館図書部」です。いわき市が発足したのは、昭和41(1966)年10月ですから、当時はまだ平市でした。それまでも、諸橋元三郎の「三猿文庫」をはじめ、「海外協会佐賢図書館」など、私立図書館・文庫はいくつかありましたが、市立図書館としてはこれが最初となりました。

平市公民館図書部の開館を報じる当時の『いわき民報』(昭和23年8月20日付)には、「閲覧は午前八時から午後三時までで貸出はしない方針」、「予算の関係で目下書籍も月刊雑誌に限られている」とあり、本格的な図書館というよりも、図書コーナーといった規模やサービスでのスタートであったようです。

場所は平市公会堂の2階で、当時、平市公会堂は、平市役所の仮庁舎として使われていました。現在の市文化センター北隣の葬祭場「さがみ典礼 いわき迎賓館」(旧大黒屋デパート跡)が、平市公会堂跡になります。

福島県内の図書館で最も古い公立図書館は、明治37(1904)年に開館した会津若松市立会津図書館です。福島市立図書館は明治41(1908)年、福島県立図書館は昭和4(1929)年の開館ですから、いわき地方における公立図書館の設置は、他の地域に比べ遅れたことがわかります。

当時も、図書館建設の声はあがりましたが、実現までには至りませんでした。ですから、市民にとっては待望の図書館開館だったのです。



平市公会堂
(「平市公会堂竣工記念絵葉書」
昭和13年)



「平市公民館図書部」から「いわき市立平図書館」へ

平市公民館図書部は、平市公会堂の2階で業務を行っていましたが、昭和27(1952)年4月、平市公会堂隣に平市公民館が建設されたことに伴い公民館内に移転します。

一方、昭和13(1938)年の開館以来“文化の殿堂”として市民に親しまれてきた平市公会堂は、建物の老朽化と、接する旧国道6号(現福島県道20号)の交通量の増加に伴う騒音のため、昭和41(1966)年4月に廃止となってしまいます。同年12月には、平市公会堂の敷地は公民館の敷地も含めて旧大黒屋デパートに売却されました。

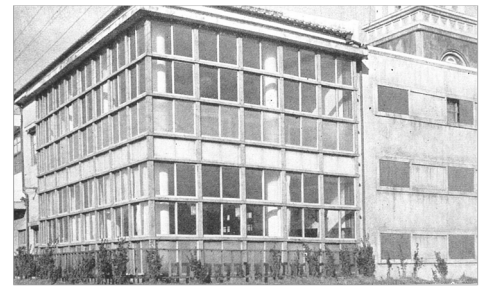
また、昭和41年10月にはいわき市が発足し、名称を「いわき市立平公民館図書部」と変更しました。

旧大黒屋デパートに売却された後も、公民館図書部は移転先が決まるまでのしばらくの間、間借りという形で同地で図書館業務を行っていました。移転先を巡っては、独立型図書館の設置を求める声がありますが、当時のいわき市は合併後の財政難を抱え、新規事業へ着手が困難な状況でした。

とはいえ、社会教育の基盤である公民館がいつまでも間借りという訳にもいかず、昭和43(1968)年7月、市は暫定移転という形で、平搔槌小路にあった私立平陽女学校跡に公民館と図書部を移転することにしました。ここで暫定移転としたのは、将来的には独立公民館と図書館の建築を目指していたからです。

平搔槌小路への移転に伴い、平公民館図書部は独立運営となり、名称を「いわき市立平図書館」と変更しました。当時の蔵書数は2万5,000冊、年間利用者は延べ1万人を超えていました。

なお、平搔槌小路への移転は、独立公民館・図書館の新築までの暫定移転のはずでしたが、新館開館は7年後の昭和50(1975)年5月の市文化センター(平堂根町)のオープンを待たなければなりませんでした。



平市公民館
(『平市勢要覧 昭和30年度版』)



搔槌小路の「いわき市立平図書館」

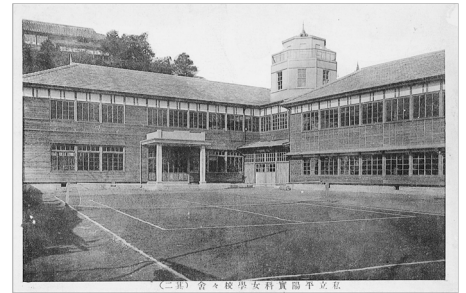
平図書館の移転先となった私立平陽女学校は、明治38(1905)年3月、私立女子裁縫学校として平町字田町に設立されました。明治39(1906)年4月、私立平陽裁縫女学校と改称します。その後、生徒数の増加で校舎が手狭となったことなどから、大正13(1924)年3月、私立平陽実科女学校へ改称されたのを機に、平図書館の移転先となる常磐線稲荷山トンネル北東側(搔槌小路20番地)に移転改築しました。昭和3(1928)年4月には、文部大臣の認可を受け私立平陽女学校と改称しますが、昭和20(1945)年7月、県立平女子商業学校(現県立平商業高等学校)に転用する際に廃校となりました。

廃校後の校舎は、平女子商業学校が昭和22(1947)年6月まで使用し、その後は、県立平盲ろう学校や、国立平工業高等専門学校(現福島高専)などが使用していました。また、昭和43(1968)7月に、平公民館、図書館が移転する直前には、火災で校舎が焼失した市立平第二中学校が、仮校舎として使用していました。

図書館は1階で業務を開始し、うち2部屋を書庫に、閲覧室は100㎡あり、移転前の1.5倍となる約60人を収容することが可能となりました。

昭和 46(1971)年頃には、公民館利用を促進する動きもあり、平公民館ではサークル活動が急増しました。その結果、施設が手狭になり、市民が思うように利用できない状況となります。また、当時すでに築 50 年近く経っていた建物だったため、暖房設備や防火設備の不備なども問題視され、早期の中央公民館建設を求める声が日に日に高まっていきました。

そんな折、『いわき民報』(昭和 46 年 7 月 23 日付)のトップ記事で「48 年度に着工 こんどは中央公民館 図書館も併設の意向」と報じられます。中央公民館建設が具体的に発表となったのは、これが初めてでした。その後計画が進み、市文化センターが昭和 50(1975)年 5 月 2 日にオープンしました。建設用地確保の問題や、いわき市合併による財政悪化など、いわきの過渡期にあったことが図書館の移転問題を複雑にし、その結果、平搔樋小路への“暫定移転”から、市文化センター移転まで 7 年を要したのです。



私立平陽女学校 (絵葉書 昭和 13 年)

市文化センターオープン「いわき市立中央図書館」開館へ

市文化センターは、昭和 48 年度から 13 億 8,000 万円をかけて建設され、昭和 50(1975)年 5 月 2 日、待望のオープンとなりました。

地下 1 階、地上 6 階建てで、1 階には 580 席を備えた大ホールを配置。6 階には児童科学館があり、当時としては県内最大規模のプラネタリウム 245 席と天文台を備え、子どもたちの夢を育てる施設として連日、見学者でにぎわいました。

図書館は、4 階に一般書、5 階に児童書を配置しました。また、移転に伴い、「いわき市立平図書館」から「いわき市立中央図書館」へ名称を変更し、昭和 50(1975)年 5 月 3 日に開館しました。

開館時の蔵書数は、平図書館の 2 倍以上に当たる 2 万 8,509 冊(うち児童書は 4,115 冊)でしたが、利用に追いつかず、蔵書不足が指摘されました。貸出冊数は 1 人 3 冊、14 日間(それ以前は 1 人 2 冊、10 日間)となりました。



文化センター遠景
(昭和 50 年 5 月 いわき市撮影)

その後も、利用者は日を迫うごとに増加しました。特に児童書の貸出が多く、1 ヶ月もすると児童閲覧室の約半分の本が貸出され、書架が空いてしまう事態となってしまいました。本がないため、ガッカリして帰る子どもの姿もあったそうです。

中央図書館時代は、日曜開館の開始、図書館情報システム導入など、サービスの拡大期となりましたが、平成 19(2007)年 10 月 25 日、いわき駅前再開発ビル「ラトブ」への移転に伴い、32 年の歴史に幕を下ろしました。

オープン当時のにぎわいを伝える当時の『いわき民報』(昭和 50 年 5 月 12 日付)には、「文化センターに 3 万 4,000 人 9 日間に市民の一割」とあり、多くの市民が押し寄せたことがうかがえます。

図書館も、開館 5 日間で 913 人が新規登録し、1,691 冊を貸出しました。平図書館時代の 1 日の平均利用者 30 人、50 冊程度の貸出に比べると、飛躍的な利用増になったのです。



中央図書館 館内
(昭和 51 年 4 月 いわき市撮影)

「いわき市立いわき総合図書館」オープン

市は平成 11(1999)年 7 月、「いわき市中心市街地まちづくり基本計画」を策定し、平成 13(2001)年 1 月には、いわき駅周辺に総合型図書館を整備する方針が示されました。さらに、同年 12 月のいわき市議会 12 月定例会において、当時の四家啓助市長が行政報告のなかで、「総合型図書館と産業交流拠点施設を、いわき駅前再開発ビルに導入することが最善と判断した」と述べ、市は、翌平成 14 年度から総合型図書館の基本計画の策定を開始します。

また、平成 13 年 7 月には学識経験者などを構成員とした「いわき市総合型図書館整備検討懇談会」が発足、8 月には図書館司書などを中心としたメンバーを構成員とした「総合型図書館整備検討ワーキンググループ」を庁内に設置し、「いわき駅前地区市街地再開発事業」と連携を図りながら、事業化に向けたフロアレイアウト、蔵書計画、図書館情報システム等に関する検討結果をまとめます。

この時点では、いわき駅前再開発ビルは地下 1 階、地上 14 階の予定でした。このうち、図書館は 4 階から 8 階に配置されることになっており、5 フロア構成となっていました。

しかし、平成 14(2002)年 4 月、再開発ビルは施設計画の大幅な見直しを行うことになり、平成 15(2003)年 11 月には、地上 8 階、地下 2 階の現在の形となります。再開発ビル施設計画の大幅な見直しに伴い、総合型図書館の施設計画も 5 フロア構成から 2 フロア構成へ変更するなど、幾度も計画の変更を経て、平成 17(2005)年 4 月、教育委員会事務局生涯学習課内に「図書館整備検討プロジェクトチーム」を設置します。図書や書架等備品の整備、新図書館情報システム構築・整備、運営体制検討等の供用開始準備に入りました。

平成 19(2007)年 5 月には、「いわき総合図書館」と名称が決まり、7 月には一部業務委託業者の公募を行います。9 月からは新図書館情報システム導入のため市内の全図書館を休館とするなど、総合図書館開館へ向けて一気に加速し、10 月 25 日、いわき駅前再開発ビル「ラトブ」の 4・5 階に開館となりました。平成 6(1994)年に「総合型図書館構想」を打ち出してから、13 年が経過していました。



ラトブオープン
(平成 19 年 10 月 いわき市撮影)

地区図書館の歩み

小名浜図書館

「いわき市立小名浜図書館」の前身となったのは、昭和 23(1948)年 9 月 1 日に開館した「小名浜町立図書館」です。貸出は行わず、1 日 5 円の閲覧料を徴収していました。

その後、小名浜町蛭川新川間に小名浜公民館が完成したことから、昭和 27(1952)年 4 月 1 日、「小名浜町立小名浜公民館図書室」となりました。

昭和 29(1954)年 3 月 31 日、磐城市発足により「磐城市立小名浜公民館図書室」に、昭和 41(1966)年 10 月 1 日、いわき市発足により「いわき市立小名浜公民館図書室」に名称変更します。また、昭和 42(1967)年 7 月 6 日には、「いわき市立磐城図書館」へ名称変更し、「磐城体育センター」(現 小名浜公民館)の 2 階へ移転しました。

昭和 55(1980)年 7 月 1 日には、「いわき市立小名浜図書館」へ名称変更し、現在に至ります。



小名浜公民館
(昭和 56 年 10 月 いわき市撮影)

勿来図書館

「いわき市立勿来図書館」の前身となったのは、昭和 47(1972)年 4 月 1 日に勿来支所 2 階に開館した「勿来図書館」です。

当時市内には平、常磐、内郷、磐城の 4 図書館があり、いずれも旧市時代から引き継がれたものでした。しかし、旧勿来市には図書館がなく、昭和 41(1966)年のいわき市発足以来、勿来地区だけ図書館がない状況でした。そのため、地区住民からの強い要望もあり、勿来支所 2 階の元議長室と議会委員会室を改装し、図書館としたのです。

6 年後の昭和 53(1978)年 4 月 1 日、新館建設中だった植田公民館が開館したことに伴い、同公民館 3 階へ移転し、現在に至ります。



植田公民館
(昭和 56 年 10 月 いわき市撮影)

常磐図書館

いわき市合併以前の図書館で、最も活発な図書館活動を見せていたのが、「いわき市立常磐図書館」の前身である「湯本町公民館図書部」です。

湯本町公民館図書部は、昭和 26(1951)年 8 月 1 日、湯本町公民館内に開館しました。当時の常磐地区は、常磐炭礦株式会社をはじめ、中小の炭鉱が林立しており、炭鉱で働く人々とその家族が多く住んでいました。「炭鉱のまち」の図書館らしく、炭鉱技術や電気関係の図書が充実していました。

昭和 29(1954)年 3 月 31 日、常磐市発足により「常磐市立湯本公民館図書室」に、昭和 41(1966)年 10 月 1 日、いわき市発足により「いわき市立常磐公民館図書室」に名称変更します。

昭和 42(1967)年 3 月、「常磐総合文化センター」(現 常磐市民会館)が完成。常磐公民館図書室もこの 2 階へ移転し、同年 4 月、「いわき市立常磐図書館」へ名称変更し、現在に至ります。



常磐市民会館
(昭和 46 年 9 月 いわき市撮影)

内郷図書館

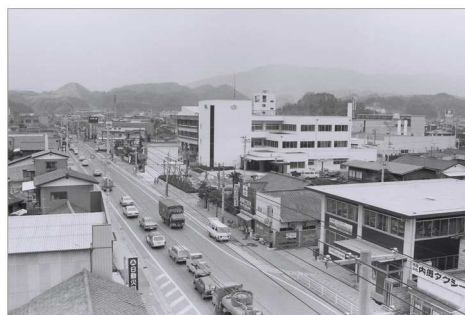
「いわき市立内郷図書館」の前身となったのは、昭和 24(1949)年 11 月 19 日に内郷町役場の元会議室を改装し開館した、「内郷町立図書館」です。

昭和 29(1954)年 7 月 10 日、内郷市が発足し「内郷市立図書館」に名称変更します。昭和 34(1959)年 11 月、内郷公会堂が完成し、翌 35(1960)年 2 月に公会堂 2 階に移転します。

昭和 41(1966)年 10 月 1 日には、いわき市が発足し「いわき市立内郷図書館」に名称変更します。

昭和 48(1973)年 3 月、いわき市役所新市庁舎が完成したことから、内郷支所の一部機能が平へ移転し、支所の空いたスペースに図書館を充てることになり、同年 7 月 3 日、内郷支所 3 階に移転しました。

昭和 55(1980)年 4 月、建設中だった内郷公民館が完成、同公民館 1 階に移転し、現在に至ります。



内郷公民館を北側から見る
(昭和 55 年 3 月 いわき市撮影)

四倉図書館

「いわき市立四倉図書館」の前身となったのは、昭和 26(1951)年 3 月 25 日に発足した「四倉公民館図書室」です。当時の四倉公民館は、四倉町役場内にありました。

昭和 32(1957)年頃には、四倉町商工会内に移転します。昭和 39(1964)年 3 月、四倉町商工会館が新築となったことから、四倉公民館も同会館に移転しました。しかし、昭和 43(1968)年頃には独立公民館の建設を求める声が高まり、昭和 46(1971)年 4 月、独立公民館として現在の四倉公民館が完成し、図書部も公民館内で活動します。

昭和 50 年代には、平、小名浜、勿来、常磐、内郷地区にはすでに市立図書館が設置されていました。しかし、四倉地区は依然として公民館図書室であったことから、地区住民より図書館設置を求める声が高まりました。

昭和 58(1983)年 5 月 6 日、四倉公民館敷地内に「いわき市立四倉図書館」として開館しました。



四倉図書館
(昭和 58 年 4 月 いわき市撮影)

これまでの 15 年

東日本大震災

平成 23 (2011) 年 3 月 11 日。金曜日の午後の図書館内には利用者があり、読書や勉強など、いつもと変わらない時間が流れていました。

午後 2 時 46 分、突然、立ってられないほどの激しい揺れに襲われました。東北地方太平洋沖地震が発生し、いわき市は震度 6 弱を記録しました。館内では、書架から飛び出した本が散乱し、天井からは照明が落下、剥き出しになったコードからは火花が散っていました。

幸い、図書館利用者に怪我はなく、大きな混乱もなく館外に全員避難することができました。

地震発生後、図書館職員は避難所や安否確認窓口などの災害関係支援業務を優先しながら、落下した図書の整理や、破損資料の修理などを行いました。照明がなく暗いなかでの作業でしたが、ボランティアなどの協力もあり復旧作業を進めることができました。

しかし、4 月 11 日夕方に発生した震度 6 弱の余震で、書架に戻した本がすべて落下してしまいます。翌 12 日にも大きな余震があり、3 度目の落下。1 日も早い開館に向けて、復旧作業を進めていた矢先の出来事でした。その後も続く余震のなか、職員は懸命に復旧作業を進めました。

5 月 2 日、市北部を巡回する移動図書館「いわき号」が運行を再開しました。同じく 5 月 6 日には、市南部を巡回する移動図書館「しおかぜ」も運行を再開しました。

5 月 23 日、市内の図書館でも比較的被害が少なかった勿来、内郷、四倉図書館が再開、5 月 30 日には照明、空調の復旧工事が完了したいわき総合図書館が再開しました。

書架の転倒に加え、窓ガラスが破損するなど被害が大きかった小名浜、常磐図書館は 6 月 20 日に再開し、これで市内全ての図書館が再開しました。

震災後は、仮設住宅への移動図書館巡回ステーションの増設、避難者等への利用者登録の拡大、防災などをテーマにした講演会の開催、震災記録の展示など、震災の経験をもとに新たな図書館サービスを展開しています。

また、平成 24 (2012) 年 6 月には、震災資料の収集・保存のため、いわき総合図書館に「東日本大震災いわき市復興ライブラリー」を開設し、震災、原発事故に関する情報を発信しています。



東日本大震災の被害の様子
(平成 23 年 3 月 いわき総合図書館撮影)

いわき市立図書館キャラクター かもまる

「かもまる」は、市の鳥・かもめをモチーフに、図書館職員のアイデアを合わせ、平成 25（2013）年 10 月に誕生しました。ホームページやフェイスブック、ツイッター、図書館報、イベント等のポスターやチラシ、移動図書館「いわき号」、赤ちゃん絵本の入った「赤ちゃん絵本パック」の貸出バッグにも描かれ、いわき市立図書館の“宣伝部長”として活躍しています。

「かもまる」は、平成 27(2015)年に開催された 第 17 回 図書館総合展 でのイベント、第 1 回 図書館キャラクターグランプリの「見た目勝負」部門にエントリーし入賞、平成 28(2016)年に開催された第 2 回 図書館キャラクターグランプリでは、「サンメディア賞」を受賞しました。



図書館報

いわき市立図書館では、図書館報『YABINA(やびな)』を発行していました。『YABINA(やびな)』創刊号は、いわき総合図書館が開館した平成 19(2007)年 10 月 25 日に発行され、はじめは、年に 4 回程の発行でしたが、平成 23(2011)年 6 月発行の第 15 号からは隔月発行となりました。

タイトルの『YABINA(やびな)』とは、方言で「一緒に行こう」といった意味の「やびな」という言葉に由来したものです。

『YABINA(やびな)』は、平成 29(2017)年 1 月発行の第 40 号で終刊となり、同年 4 月には、新しく図書館報『かもまる通信』が創刊されました。

『かもまる通信』は、いわき市職員の利用促進を図るため、平成 28(2016)年から庁内に向けて発行していた同名の図書館情報誌を、平成 29(2017)年にいわき総合図書館が開館 10 周年を迎えた際に、図書館を利用する全ての方々に向けた図書館情報誌としてリニューアルしたものです。月に 1 度、令和 4(2022)年 11 月現在で第 66 号まで発行されています。

そして、令和 3(2021)年 6 月には、『かもまる通信』のこども版『ちびまるだより』が創刊されました。はじめは、隔月発行でしたが、令和 4(2022)年 4 月発行の第 6 号からは、月に 1 度となりました。令和 4(2022)年 11 月現在で、第 13 号まで発行されています。

『YABINA(やびな)』は第 19 号から、『かもまる通信』と『ちびまるだより』は第 1 号から、いわき市立図書館ホームページで公開しています。



左から『YABINA』創刊号、『かもまる通信』第 1 号、『ちびまるだより』第 1 号

SNS(フェイスブック・ツイッター)

いわき市立図書館では、図書館の情報を広く迅速に発信するため、平成 26(2014)年 2 月から、フェイスブックとツイッターの利用を開始しました。当時としては、福島県内の公立図書館で初めての試みでした。

現在、図書館主催イベント、市内各館の本のテーマ展示、休館日等のお知らせや、いわき市立図書館で受付けたレファレンス(※)事例紹介といった様々な情報を発信しています。

※レファレンス

：図書館利用者の調査研究課題に対して、適切な資料や情報を紹介し、課題解決を助けるサービス。

電子図書館

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で、非対面や非接触といった、新たな生活様式を踏まえた対応が求められるようになったことを受けて、令和3(2021)年12月22日から、「いわき市電子図書館」として、電子書籍の貸出サービスを開始しました。

これは、図書館へ来館することなく、いつでもパソコンやスマートフォン等の端末から、電子書籍の検索・貸出・返却・閲覧をすることができるインターネット上の図書館サービスです。

所蔵している電子書籍は、小説やエッセイ、絵本、実用書、調べ学習に使える図鑑、紙の本では収集対象としていない参考書や問題集等を揃えています。

これらの書籍の中には、文字の拡大ができる書籍や音声読み上げに対応した書籍、生き物の鳴き声を聞くことができる図鑑、アニメのように動く絵本等、電子書籍ならではの特徴のあるものもあります。



いわき市電子図書館 トップページ

参考資料

- 『いわきの図書館』 いわき市立いわき総合図書館／編著 2017 K/016/1
(平成29年度後期企画展の配布資料。図書館ホームページ「郷土資料のページ」で公開しています。)
- 『いわき市の図書館』 いわき市立いわき総合図書館／編 K/016/1
(いわき市立図書館年報)
- 『YABINA(やびな)』 いわき市立いわき総合図書館／編 2007～2017
- 『かもまる通信』 いわき市立いわき総合図書館／編 2017～
- 『ちびまるだより』 いわき市立いわき総合図書館／編 2021～

いわき総合図書館

<https://library.city.iwaki.fukushima.jp/>

Facebook

<https://www.facebook.com/iwakilib>

いわき市電子図書館

<https://web.d-library.jp/iwakisogo/g0101/top/>

Twitter @iwakilib

<https://twitter.com/iwakilib>

令和4(2022)年11月18日発行

■編集・発行 いわき市立いわき総合図書館



令和4年度 後期常設展

「いわき総合図書館開館15周年記念 いわきの図書館－はじまりから今へ」

■会期 令和4(2022)年11月15日(火) — 令和5年(2023)年6月11日(日)

■会場 いわき総合図書館 5階 地域資料展示コーナー